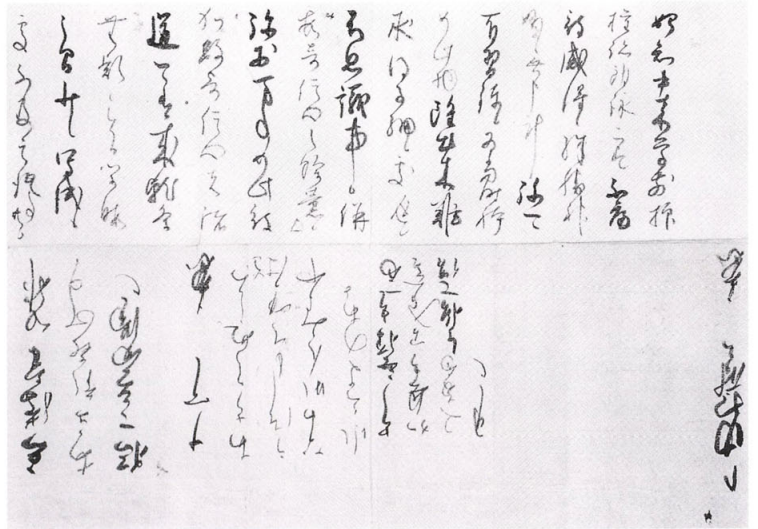




漆箱収納袋



基熙から家熙宛の書状



収納箱

19 「粘葉本和漢朗詠集」付属品
基熙書状、漆箱、袋 三點

作品は、白・黄・藍等の具引きの上に、亀甲・牡丹・雲鶴・唐草等の文様を雲母で摺りだした、いわゆる唐紙に、藤原公任(九六六〜一〇四二)撰の『和漢朗詠集』を書写したもので、流麗な仮名と柔らかな漢字が絶妙に融合した文字の美しさは、王朝屈指の名品とされる。明治十一年、近衛家献上の品である。

本品には、父・基熙から家熙に宛てた書状が一通付属している。その文意は、家熙が本品を思いがけなく入手したことを喜び、この名品を手本として、なお書道の習練に努めるよう勧めている。また、名品を入手したことは、家熙の「数奇信心之余薫(風雅の道に心を寄せ、努力した賜物)であり、なお努力すれば、諸道を極めることは疑いないと励ましている。書状の年次は不明であるが、家熙を内相府(内大臣)としていたことから、家熙が二〇歳(貞享三)〜二七歳(元禄〇)の間のもと考えられる。

現状では、四重箱に収められるが、家熙の時期には二重目からの三重箱であった。その最も内箱は、黒漆地に鶴丸文の蒔絵を散らした品の良い漆箱である。また、その収納袋は白茶地蜀江形段織文繻珍で、家熙が摂政を勤めた中御門天皇(在位一七〇九〜三五、崩御一七三七)の和歌懐紙(陽明文庫蔵、参考作品③)の中廻しにも用いられている船載品である。いずれも品格の高さを象徴した仕立てであろう。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

近衛家熙 ― 風雅の探究

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 25

編集 宮内庁三の丸尚蔵館
制作 株式会社 東京美術
翻訳 横溝廣子
発行 宮内庁
平成十三年七月七日発行

©2001, Museum of the Imperial Collections